

# おくら（普通）

## 栽培暦

月 作型	5	6	7	8	9	10
露地 (直播)	播種			収穫		

## 栽培の特徴とポイント

高温性の作物で、発芽適温は25～30、生育適温は日中25～30である。15以下では生育が鈍くなり、10以下では生育が停止する。栽培にあたっては、耕土が深く、排水・日当たりのよいほ場を選ぶ。連作するとネコブセンチュウや苗立枯病の発生が多くなることやかん水が必要であることから、水田転換畑での栽培にむく作物でもある。特に過湿によって生育不良になりやすいため、排水対策が重要なポイントとなる。土壌酸度はpH6.0～6.5が適している。直根性であるため、移植すると根傷みを生じやすく、早期出荷をねらう場合を除き、直播栽培がよい。早い時期に播種すると、発芽が不揃いとなりやすいことから、5月中下旬ごろに播種する。開花位置などを見ながら、草勢に合わせた追肥やかん水を行い、肥効を切らさず、草勢の維持に努める。

## 品 種

スターライト：果色が特に濃いグリーンで、稜角のはっきりした正五角形のF1品種。イボ果、曲がり果、アントシアン果の発生が少ないので、上物率が高く、市場性に優れている。

ガリバー：莢は、極濃緑で光沢があり稜角のはっきりした五角形で市場性が高いF1品種。極早生種で、イボ果や曲がり果の発生が少なく、秀品率が高い。草丈は矮性で、節間は短く、葉は小さく、立性。分枝は中程度。

## 本ば管理

### 1 ほ場準備、施肥

多湿を嫌うため、排水の良いほ場を選ぶとともに、排水溝を設置する。播種の3週間程度前に、完熟堆肥と苦土石灰、ようりん（埴土、黒ボク土で施用）を施用し、深く耕す。播種の1週間前に、基肥を施用し、適度な土壌水分がある状態で、畝を立て、黒マルチ（又はグリーンマルチ）をかける。

畝幅150cm（ベット幅70cm、通路80cm）、畝の高さ（20cm）とする。

施肥例（kg/10a）

肥料の種類	基肥	追肥			成分量			備考
					N	P	K	
完熟堆肥	2,00							追肥：開花初めから7～10日後 追肥：の20～25日後 追肥：の20～25日後
苦土石灰	0							
ようりん	100							
やさい硝加燐安 333	100				13	13	13	追肥の量、回数、時期は、草勢を見て加減する。
やさい燐加安 S540		30	30	30	13.5	12.6	9.0	
計					26.5	25.6	22.0	

## 2 播種

10a 当たり3リットル程度の種子を用意する。おくらの種子は、皮が硬く吸水しにくいので、種子を一昼夜、水又はぬるま湯に浸漬してから播種したほうが発芽揃いがよくなる。条間45cm、株間25~30cm、2条千鳥に点播する。1穴に4~5粒播種して、1cm程度覆土し軽く鎮圧する。欠株がでた場合の補植用として、ポットにも播種しておくといよい。本葉3枚時に、生育のよいものを1穴あたり2~3本残して間引く。

## 3 追肥・草勢管理

開花位置の上に3枚以上、葉が展開していれば、順調な生育である。開花初めから7~10日頃に1回目の追肥を行い、その後、20~25日間隔で追肥する。草勢が強すぎたり、弱すぎたりするとイボ果や曲がり果の発生が多くなるので、草勢を見ながら追肥の量や回数を加減する。

	草勢が強い状態	草勢が弱い状態
開花位置	生長点から葉が4~5枚下で開花する。	生長点のすぐ下で開花する。
果実	生育初期にチッソが多いと落花が多くなる。イボ果や曲がり果が多くなる。	果実の生育が悪くなり、硬く、果色が淡くなる。イボ果が発生する。
茎	茎が太く、節間も長くなる。	生長点付近の茎は細くなり、節間は短くなる。
葉	切り込みが浅くなり、葉色が濃くなる。	小さく、葉色が淡くなる。切り込みが深くなる。

## 4 収穫

開花から収穫までの日数は、7月は4日、8月は3日、9月は4~5日である。気温の低い朝のうちに、莢の長さが8~10cmになったものをハサミで切り取って、収穫する。収穫が遅れると莢が硬化して品質を落とすので、穫り遅れないよう注意する。イボ果や曲がり果は、小さいうちに摘果する。

## 5 摘葉

収穫と同時に、果実とともに、収穫節の葉を摘葉し、風通しと日当たりを良くする。草勢が弱い場合は、収穫節の下3~4葉を残す。側枝は、早いうちにかき取る。

## 6 かん水

おくらは乾燥に強いが、水不足は生育の遅れ、イボ果や曲がり果の発生につながるので、乾燥状態が続けば、かん水する。

## 病虫害防除

- 苗立枯病 : 発芽直後から幼苗期にかけて発生し、地際部が侵されて倒伏し、枯死する。低温、多湿で発生しやすい。適期に播種するとともに、排水対策等により多湿状態を改善する。
- アブラムシ : 葉裏や生長点部分に多く発生し、葉を萎縮させる。高温で発生しやすい。発生を確認したら、早期に薬剤で防除する。
- オオタバコガ : 8~9月にかけて発生が多い。幼虫が花や幼果に食入する。食入した幼虫は防除が難しいので、食入前の防除に重点をおく。

## 販売のポイント

おくらは、タンパク質、ビタミン類、カリウム、カルシウム、食物繊維などを多く含み、栄養価の高い野菜であることをPRするとともに、鮮度保持に努め、朝穫りなどの差別化を図る。